

## 派遣先紹介

生方史数

今回は、私の派遣先であるロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(以下 LSE)の開発学研究所(以下 DESTIN)について簡単に紹介いたします。LSE は、1895 年に設立されたロンドンの中心部オールドウィッチに位置する社会科学専門のカレッジです。設立以来、ライオネル・ロビンズ、ロナルド・コース、アーサー・ルイス、ブロンスワフ・マリノフスキーなど、社会科学の分野において、数多くの著名な研究者を輩出してきました。

DESTIN には、発展途上国の開発問題を扱っている研究者が約 30 名在籍しており、研究と学部生・院生の教育に従事しています。専門分野も経済学、政治学、社会学、人類学と多岐にわたっており、5つの学際的な研究クラスター（制度変化とガバナンス、紛争地域の社会と人権問題、グローバリゼーションと金融・貿易、ローカルレベルの生活戦略、農村開発）の中で、各々関連する研究を行っています。私は現在、本研究所のスタッフで、環境と開発の政治学が専門であるティム・フォーサイス氏と連携をとりながら、東南アジアにおける資源をめぐる協力とコンフリクトについて、政治経済学的な見地から分析を試みているところです。

9月に渡英してから現在までは、図書館に毎日通って文献をあさり、論文・書籍を読みふける毎日でした。LSE の図書館は、社会科学系で世界最大の図書館といわれており、膨大な数の図書、資料、電子リソースを蔵しています。朝 8時から夜の 12時まで館内にいることができ、やろうと思えば一日中本の中で埋もれて過ごすことができます。また、公開講義、研究会、ドキュメンタリー上映など、毎日様々なイベントが開催されており、著名な研究者やジャーナリスト、政治家が講演を行うこともしばしばです。先月は、本校の前学長アンソニー・ギデンズ名誉教授による公開講義が行われました。今月は、自由貿易擁護で有名な、コロンビア大学のジャグディッシュ・バグワティ教授による公開講義が行われています。毎週水曜日には、**Thinking Like a Social Scientist** というリレー公開講義が行われており、学生や研究者たちを学際的な議論へといざなう試みがなされています。

もちろん、「お堅い」イベントではありません。毎週木曜日には、ランチタイム・コンサートが開かれ、ジャンルを問わず有名なアーティストの演奏を楽しむことができます。ランチタイムの 1時間だけなんて、なんともったいない！

このように、素晴らしい環境のもとで研究を行っているのですが、学生たちもそのことをよく認識しているようです。こちらの学生は学部生、院生を問わず、非常に勉強熱心です。留学生も非常に多く、欧米諸国や中東、インドはもとより、中国からの留学生が意外と目立つのが印象的です。彼らのエネルギッシュな活動ぶりは、私にとっても非常に励みになります。これからも、彼らに負けないように？研究に励んでいきたいと思えます。

